

ふね遺産 第1回 応募案件－6

「ふね遺産」：金華山丸のブリッジリモートコントロールスタンド

2016年12月07日提出 氏名：川越美一／大内一之

所属：株式会社商船三井／大内海洋コンサルタント

メールアドレス：yoshikazu.kawagoe@molgroup.com／ouchi@athena.ocn.ne.jp

	内容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属または所有者	対象物：金華山丸のブリッジリモートコントロールスタンド 所有者：株式会社商船三井	●見学可能
2. 対象物の作成・存在時期	1961年の竣工に合わせて本船に搭載され、1979年解体の際に取り外し、商船三井の技術研究所に保管されている。	
3. 現状 (写真添付)		
4. ふね遺産認定基準の該当項目	【認定対象】 (2) それらの設計、製造、運用、教育に関連した設備、工具、施 【認定基準】 (1) 独創的または新規の技術を与えたもの (3) 設計上の大きな進歩を与えたもの (4) 技術の進歩・改良の大きな一段階となったもの	
5. 歴史的・工学技術的意義	船橋から主機を直接操縦するブリッジコントロール方式と、機関部の監視や制御を機関室下段のコントロールルームで集中的に行う集中監視制御方式を採用した世界最初の自動化船「金華山丸」は、当時海運業が直面した乗組員不足と採算性追求の流れの中で、1961年に三井造船が三井船舶向けに竣工。それまで自動化船にさほど積極的ではなかった欧米各国でも、金華山丸に刺激されて自動化船の建造意欲が盛り上がり、その後夜間機関室無人化は世界の趨勢となった。 金華山丸は、低船価・短納期を武器に戦後わずか10年で世界のトップの座に躍り出た日本の造船業が、技術力でも遂に世界の頂点に立ったことを示した金字塔の一つといえる。	1964年には世界初の夜間機関室無当直を実現したデンマーク船主向けタンカー「セルマ・ダン」が日本で竣工。さらに1969年には日本初の夜間機関室無人化船「ジャパン・マグノリア」が竣工した。
6. 参考資料・文献（本表に収まらない場合は別途添付する）	日本船主協会 HP https://www.jsanet.or.jp/seminar/text/seminar_277.html 商船三井船舶維新 HP http://www.mol.co.jp/ishin/engine/past/ ●昭和造船史（日本造船学会、昭和48年11月刊） ●主要目とGA（三井船舶と三井造船が作成したパンフレット） ●、「Remote and Automatic Controls on a Japanese Cargo Liner」、The Motor Ship、Jun1962	●2017年2月7日追加記入